

令和8年 網走市議会
文教民生委員会 会議録
令和8年1月15日（木曜日）

○日時 令和8年1月15日 午後1時00分開会

○場所 議場

○議件

1. 最終処分場の状況について

○出席委員（7名）

委員長	古田 純也
副委員長	栗田 政男
委員	金 兵 智 則
	里 見 哲 也
	永 本 浩 子
	平 賀 貴 幸
	古 都 宣 裕

○欠席委員（0名）

○議長 松浦 敏司

○説明者

副市長	後藤 利博
市民環境部長	田 邊 雄 三
市民環境部次長	寺 口 貴 広

○事務局職員

事務局 長	岩 尾 弘 敏
次 長	本 橋 洋 樹
総務議事係長	和 田 亮
総務議事係	山 口 諒

午後1時00分開会

○古田純也委員長 ただいまから、文教民生委員会を開会いたします。

本日の委員会ですが、所管事務調査であります。

それでは、議件1、最終処分場の状況について説明を求めます。

○寺口貴広市民環境部次長 資料1号を御覧ください。最終処分場の状況について御説明します。

1の残余容量と推計残余年数についてですが、令和7年10月の測量結果では、残余容量は3万7,686立方メートル、残余割合は27%となっており、この間の埋立状況から、残余年数は4.8年と推計してい

ます。また、12月に行った測量結果においても、数値にほとんど変化がなく、残余容量は3万7,608立方メートル、残業割合27%で残余年数を同じく4.8年と推計しているところです。このことから、令和12年8月頃まで使用できるものと見込んでおります。

次に、2のかさ上げによる埋立容量の拡張についてですが、最終処分場の満了を見据え、最終処分場の周囲に高さ3メートルの土堰堤を設けることにより、約3万5,300立方メートルの埋立容量の拡張を計画し、その延命効果を3年程度と見込んでいましたが、最近の埋立量から試算し直したところ、4年5か月程度の効果があると推計しています。これにより、かさ上げ後の最終処分場は、令和17年1月頃まで使用できるものと見込んでいます。また、この期間中には、新たに設立予定の一部事務組合が整備する中間処理施設の供用が予定されており、供用後は焼却灰と不燃ごみを埋め立てることになりますが、容量が5分の1程度に減ると見込んでおり、さらなる使用期限の延長が期待できます。

続いて、3の次期最終処分場の整備についてですが、次期最終処分場については、現在の最終処分場の状況を踏まえると、直ちに整備に着手する必要はないと考えますが、引き続き、埋立状況に注視をしながら、実施時期について検討を進めてまいります。

説明は以上でございます。

○古田純也委員長 ただいまの説明で質疑等ございますか。

○里見哲也委員 これ昨年10月に調査と、さらに念のためなのか12月にやっているということのようですけれども、令和6年の10月と比べても、令和7年の10月、1年間の時点で残余年数が1年たって、その間のごみも入っているけれども、残余年数が延びて4.8年になっているという理解でよろしいのかと思いますが、これ今までの経過からいっても、昨年もいろいろな報道等もありましたけれども、市民にとっては、経過のことを言っているのではなくて、この今の4.8年という結果、延命化が順調に進んでいるということを広く知ってもらい必要があるんだろうと思うのですよね。だから、広報なのか、

あるいはごみ通信なのか、手法はあるのでしょうかけれども、これはやっぱり昨年いろいろと取り上げられた経過からいっても、その経過の中身は置いておいても非常に順調に進んでいるということは、市民の安心材料のために知らしめる必要があると思うのですけれども、そのあたりの御予定とかいかがですか。

○寺口貴広市民環境部次長 この間、延命の効果が現れてきた要素として、やはり市民の方の分別など、ごみ出しの協力っていうところが大きい部分かと思しますので、引き続きこの延命効果を維持するためにも、まずは、今後とも分別などの協力を呼びかけの中で、現在の処分場の状況についても併せてお知らせする方法について検討してまいりたいと考えています。

○里見哲也委員 市民の協力が必要なので、おっしゃるとおりだと思いますので、ぜひそのようにお願いいたします。

以上です。

○古田純也委員長 他に。

○古都宣裕委員 まず伺いたいのが、測定年月日のやつ、令和6年10月8日、1日ではなかったんだなというところを見て、いいのですけれども、令和7年10月1日で4,239立方メートル、令和7年12月1日の2か月やって78立方メートルになっているけれども、これ何ですか。

○寺口貴広市民環境部次長 2か月間ごみが入ってきますので、通常でいけば、量が増えていくというのが一般的ですけれども、今回でいきますと、10月以降も掘り起こした場所に、さらに転圧などをかけていくことによりまして、さらにくぼみができたりというようなことで、結果的にその差引きでいくと、増えた分として78立方メートルになったというところでございます。

○古都宣裕委員 搬入量とかを見ると多分そんななというところもある中で、埋め立てた面積の中で78立方メートルになったというのは理解するところなんですけれども、下のほうのかさ上げによる埋立容量の拡張についてというところになっているのですけれども、今までのやり方よりも破碎処理したことによって、今ある穴がより一層の量が入って、それによって圧がかかっていると思うのですよね。ということは、崖状のところ土留めをしてつくっているわけですが、その土留めの部分により圧がかかっていることだと思うのですよ。その上で、さ

らに今のやり方で量を入れることによって、もともとの設計から大きく外れるような圧がかかるのではないかなという、土留め自体がどれぐらい強度があって、今後ずっと安全だって言えるような設計なのかという、これすごく大きな疑問を持っているのですけれども、その辺はどうなんですか。

○寺口貴広市民環境部次長 かさ上げを当初計画したときに、コンサルタントにどのぐらいのかさ上げなどが土圧というのは、土の圧に耐えられるかというようなこととかの計算などもしていただいて、今回、この3メートルまでは可能ではないかというようなところを算出しているところでございますけれども、今後、実際にかさ上げをするに向けては、また実施設計等を行っていくことになりますので、その中で詳細な設計を立てていくことになるのかと考えております。

○古都宣裕委員 こうした部分、安全に関わることから、ぎりぎりを狙うのではなくて、ある程度余力を見ながらつくっている計画だとは思いますが、数値を間違えることによって、環境負荷だったり、それに伴う処理だったりいろいろな予算が、もしミスしてしまうと膨大にかかるわけなのですけれども、その辺の責任所在とか安全性の確認というのはどのようにになりますか。

○寺口貴広市民環境部次長 今後、かさ上げの計画、設計を具体化していく中で、そういった影響についても評価をしながら実施していきたいと考えております。

○古都宣裕委員 当初より長年もつようになってきたというのは明るい見通しなのかなとは思いますが、その辺、コンクリート強度やそういった部分の耐用年数とかも含めて、しっかりとした計算の上で、もし万が一、計算方法がちょっと間違っていましたでは済まなくなってきたときに、投げたコンサルに何らかしらの責任はあるのか、それとも、市が何か抜けていたことになって市の責任になるのか。どういう責任になるというふうに考えているのかなっていうのは、あるのですかね。コンサルには何ら責任はない形で、何かあったら網走市が最終的な責任があるという前提の下、動いているものなのか。

○寺口貴広市民環境部次長 コンサルには委託ということで市が発注しておりますので、最終的な責任という部分においては、やはり市が負うものかと思っておりますけれども、業務を遂行する上で何らかコンサ

ルに瑕疵等があった場合については、その状況によっては、協議することはあり得ると思いますけれども、一義的には市の責任というふうに考えております。

○古田純也委員長 他に。

○永本浩子委員 今回、10月の調査の結果、かなり埋立量が減っているということで、先ほど里見委員のほうからも大変喜ばしいことだということで話がありましたけれども、私も本当にそう思います。先ほど、その要因として市民の分別の協力が大きいというお話はありましたけれども、もちろんそれもあると思いますけれども、ここまでやっぱ減ったということは、それだけではなく、これまでに建ててあったものの掘り起こしをして、破碎機にかけ直して再埋立てとか、あと、覆土量の調整とか空気抜きのパイプを入れたりとか、そういったことも大きい要因なのではないかと思っておりますけれども、その辺のところはどうなんでしょうか。

○寺口貴広市民環境部次長 実際、埋立ての作業の中では今、委員からお話ありましたように、やはり今年度もやりましたけれども、掘り起こし作業、過去のごみを掘り出して破碎してというところが大きな要因だと思っております。あわせて、作業によって覆土も再利用できたりということで新たに搬入する量も大幅に減らすことができておりますので、そういったところのトータルでこういう結果になったのかなというふうには思っております。

○永本浩子委員 やはりその辺の工夫、努力というところも市民周知するときには、きちんと伝えていただければと思いますので、その辺はいかがでしょうか。

○寺口貴広市民環境部次長 この間の取組というような形で、先ほど里見委員のお話もありましたけれども、処分場の現状という中で、その辺も含めてお知らせしていきたいというふうに思っております。

○金兵智則委員 残余年数が延びたということは大変喜ばしいのかなというふうに思いますけれども、それなりにお金かけてきていますので、この間。成果が成果がと言いますけれども、成果を出してもらわないと、余分にお金かかっているわけですから、そこだけは忘れないようにしなければいけないのかなというふうに思いますけれども。お伺いするのですが、埋立量が10月1日、4,239立方メートルということになっているのですけれども、令和6年10月8日、1年前ところから4,239立方メートル増えた

という意味でいいのですよね。

○寺口貴広市民環境部次長 おっしゃるとおりでございます。昨年の10月から1年間の埋立量でございます。

○金兵智則委員 となると、1年間で大体4000立方メートルの埋立てがされるということですよ。残余容量が3万7,000立方メートルがあって、これ残余年数4.8年というのは、どういうふうに計算したらこの金額が出てくるのですかね。これ、ざっくり割ったら8年ぐらいもつのではないかという計算なのだと思いますけれども、どう見たらいいものなのですかね。

○寺口貴広市民環境部次長 委員からお話ありましたように、1年間の埋立量4,239立方メートルですけれども、これ単純に割りますと、12か月で割りますと350立方メートルぐらいになりまして、それを単純に残業容量で割ると9年近くの残余年数という、単純計算にはなってしまうのですけれども、ここににつきましては、今年度もそうなのですから、掘り起こしを行った結果として4,239立方メートルということになっておりますので、この掘り起こしがこの後もずっと続くわけではありせんので、今回の試算につきましては、仮に掘り起こしをしていなかった場合、ずっと埋立てを行っていた場合を推計しまして、それを12か月で割り返したところ、1か月当たり660立方メートルぐらいになるのではないかという推計から算出しているものでございます。

○金兵智則委員 というと、年間約8,000弱ぐらいになるのかな。すぐ計算できないですけども、多分それぐらいになるという計算であるならば、掘り起こして、たしか今年度と昨年度、2か年やったのですけれども、それ以上やる場所はないという考え方なのですか。まだやれるという、ちょっと来年度で予算を見たらわかるのかもしれないですけども、それは、やるところはもうないのですか。

○寺口貴広市民環境部次長 掘り起こしにつきましては、今お話しありました新年度予算の部分で、一応、令和8年度につきましても実施することで予算案としては出させていただく予定ですが、令和9年度以降については、今のところは未定ですので、今回の推定については、今後については、掘り起こしをしない前提で試算をさせてもらったところなんです。

○金兵智則委員 令和8年度については、やりたい

なというふうになっている。ということは、令和8年度についての1年間については、この埋立量を4,000強ぐらいで計算をして、令和9年度以降は、それをしないバージョンで計算した結果、4.8年というふうに出たということですか。

○寺口貴広市民環境部次長 令和8年度、今のところは実施する考えなのですが、今回の計算については、次年度以降はしていない、掘り起こしをしていない試算で算出しております。

○金兵智則委員 となると、令和8年度やったときには、もっと延びる可能性が出てくるということですよ。その上で3か年、令和8年度までやったら、もうそれ以上は掘り起こしはできないのですか。やる場所がないとか、もう一通り全部やったから終わりだという考え方なのか、もしやれるのであれば、続けていきたいという考え方なのか、担当課としてはどちらなのですか。

○寺口貴広市民環境部次長 今回、掘り起こし、令和6年度からを含めると3か年ということなのですが、その場所というのが、比較的、最終処分場の埋立てを初期に行った場所でございます、減容効果が高いのではないかとということで掘り起こしているところなのですが、その先の場所としては、広い埋立処分場ですので、掘り返す場所はあるとは思いますが、その費用と効果といえますか、どのぐらい効果があるということまでは検証できておりませんので、今のところは未定という考えでございます。

○金兵智則委員 わかりました。取りあえず令和8年度予算が通ってからという話になると思いますけれども、もし通って予定どおりできれば、残余年数は4.8年というよりは延びるのではないかと臆測だということで理解をしたいというふうに思うのですが、加えて、かさ上げはずっとやっていますし、何か調査みたいなことは今年度やられたというふうに理解をするのですけれども、かさ上げするのにも、どれぐらいでしたか、3億円ぐらいでしたでしょうか、もっとでしたか、多分それぐらいだったと思うのですが、それを費用対効果で見たときに、かさ上げはいつの時点になってもいっぱいになるが見込まれるときは、かさ上げはこの処分場についてはするという考え方なのか、ある程度までもてば新しいほうに移ったほうがいいのか。今度、焼却施設ができれば焼却灰だけなので、最終処分場も小さくできますよね、15年という計算で多分

掘ると思うので。その辺の考え方については、もう持っていますか。

○寺口貴広市民環境部次長 かさ上げにつきましては、仮に中間処理施設が稼働して焼却灰になったとしても、今のところは、かさ上げを実施する考えでございます。かさ上げの工事費、整備費につきましては、当初計画した時点の概算では、3億4,000万円程度と見込んでいましたので、実際工事する時期には、もっと物価高騰等で高額な整備費になるかと考えますけれども、仮に、新たに最終処分場を造るとなると、焼却灰に対応した小さな穴だとしても、令和6年度時点の試算ですが、30億円から40億円はかかるのではないかと試算されておりますので、そこもさらに実際の着手の時期になると、高騰している可能性もあります。そこでいきますと、かさ上げのほうは価格の面で経済的に抑えられるかなという部分と、あと、かさ上げをすることによりまして、今、令和17年1月までということでお示ししておりますが、中間処理施設が仮に予定通り令和13年10月頃に供用開始になったとしますと、今のような埋立ては、かさ上げ後1年程度で、それ以降については、焼却灰等ということで、容量が5分の1ということは、単純な計算にはなってしまいますけれども、4年5か月のうち、1年は今のような埋立てを続けたとして、残りの3年数か月は5分の1になるということであれば、15年以上はもつのではないかとということで、新たな処分場を整備するのと同等の効果があるのではないかとこのようにも見込んでおりますので、かさ上げについては、実施する予定で考えております。

○金兵智則委員 何となく理解するところではあるのですが、ただ、最終処分場を後にすればするほど、このまま高騰していくと、工事費もどんどん膨らんでいくわけですよね。そうなったときに、かさ上げでやった部分のみ込まれてしまうぐらい値上がりをしてしまうのであったら、少しでも早いほうがいい、今の段階のほうがいいのかもしれないという考え方も出てくるわけですよね。わからないですよ、高騰がどこかで止まるのかもしれないですし、ただ、計算上だけで言えば、高騰分がかさ上げ分のみ込んでしまう可能性だって出てくるわけですよね。その辺も注視していただきたいと思うのと、かさ上げをするなど言っているわけではないですし、議案が出てきてるわけではないので、その可否は言わないですが、そこに固執するばっか

りにタイミングを逸してしまっただけで余計なお金を、今までさんざん余計なお金を使っているわけですから、これだけは毎回言います。さんざん余計なお金を使っているわけですから、そのタイミングを逸しないようにだけ、そこに固執することのないようにだけしていただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○寺口貴広市民環境部次長 今の御指摘も踏まえまして、その整備時期につきましては、様々な要因を踏まえながら検討していきたいというふうに考えております。

○古田純也委員長 他に。

○古都宣裕委員 今回、この資料として令和6年10月8日と令和7年10月1日、令和7年12月1日としてあるのはわかるのですが、この令和6年、令和7年については、埋め戻しをされているときの数字を基にした上で、4.8年とする根拠としては、その前の数字が反映されているということは、その前の数字も載せるべき資料ではなかったのかなと思うのですよね。でないと、先ほどの質問のように根拠として何かおかしい形で、何で4.8年なのですかという話になってくるので。なぜそこは載せなかったのですか。

○寺口貴広市民環境部次長 前の数字とおっしゃいますと令和6年より以前の経過ということによろしいでしょうか。

○古都宣裕委員 そうですね。これ、令和6年、令和7年というのは、埋め戻しを差し引いた埋立ての量として記載されているわけだから、僕らがこうして、以前の資料でも載っているとは思っているのですが、今こうして示されるときに、僕らに説明するときに、その前の数字もなければ、この4.8年の根拠が表から見えてこないわけですよね。ということは、その前の数字までしっかり載せた上での説明があるべきだと思うんですよね。違います。

○寺口貴広市民環境部次長 今回は、直近のといえますか、昨年との比較でという意味でこういう形ですけれども、御指摘を踏まえまして今後については、そういった比較検討もできるような資料にしていきたいというふうに考えています。

○古田純也委員長 他に。

○平賀貴幸委員 ちょっとだけ伺いますけれども、12月1日の埋立量、月に直すと34立方メートルのかな。掘り返しているから、たまたまこのときだけ少ないのですか。何か極端に少ないのですけれども。

も。

○寺口貴広市民環境部次長 12月1日の埋立量でございますけれども、今年度、掘り返しをした場所、工事を終える時点で転圧等をしているのですけれども、その後も引き続き、10月、11月とさらに転圧などかけたところ、さらにくぼみができました。そういったところに入ってくるごみは、一定量入っているのですけれども、その差引きで78立方メートルということでございます。

○平賀貴幸委員 そこは理解しました。最終処分場の整備についてですけれども、しばらく必要なさうだということは理解できたのですが、残り何年ぐらいになったら結局は整備しなければいけないのでしたか。ちょっと改めて伺いたいと思います。

○寺口貴広市民環境部次長 最終処分場の整備の期間では、約6年程度かかると見込んでおりますので、満了になる6年、もしくは余裕を見るのであれば7年、そのぐらい前から整備に着手する必要があるかと考えています。

○平賀貴幸委員 かさ上げの効果、それから新しい中間処理施設の減量効果によって、その時期は前後してくるんだというふうに思いますので、そこら辺を注視していきたいと思いますが、理解できましたので。

私からは以上です。

○古田純也委員長 他に。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なきようですので、この件につきましては、この程度で終了してもよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

ここで理事者退席のため、暫時休憩いたします。

午後1時26分休憩

午後1時26分再開

○古田純也委員長 再開いたします。

次に、来年度の行政視察について協議いたします。まず、来年度も実施するか否か、御意見を頂きたいと思います。

○里見哲也委員 御意見ということですので、ぜひやっていただきたいなというふうに思います。

○古田純也委員長 ただいま実施するという意見がありました、実施することによろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

それでは、実施することに決定いたします。

次に、実施時期についてですが、改選がない年に

については、例年５月に実施しておりますが、その時期に実施する方向でよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

そのように決定しました。

視察先、視察項目についてですが、候補を２月６日金曜日までにラインワークス等に取りまとめたと思います。候補が取りまとまりましたら、視察先、視察項目を決定するために委員会で協議したいと考えますが、そのような流れでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

そのように進めたいと思います。

その他、委員の皆様から御意見ございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、これで文教民生委員会を終了いたします。

午後１時２８分閉会
